

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	0175200096		
法人名	有限会社シルバーサポートノア		
事業所名	グループホーム・ふ・れ・や・か・朋悠		
所在地	〒092-0063 北海道網走郡美幌町字元町2 8 番地 4 2 (電 話) 0152-72-0606		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年3月26日

【情報提供票より】 (平成20年11月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	4月	15日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	19 人	常勤	18人,	非常勤 1人, 常勤換算 16.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	18,000～25,350 円	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	380 円
	夕食	380 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (11月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美幌町立国保病院、美幌療育病院、平間医院、池田歯科クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、小高い丘の上の住宅街に立地し、開設してから3年が経過している。地域との交流を意識し、毎月自治会内に「朋悠たより」を配布するとともに、地域の行事に参加したり、事業所の行事である夏まつりに地域住民の参加を得るなど、互いの交流を活発に行っている。また、サービスの質の向上を図るため、人材の育成にも力を入れており、積極的な外部研修への参加や、施設長自らが役員となる管内グループホーム協議会の研修会への参加等の取り組みを通して、資格を取得するなどの意欲のある職員が育っている。更に、重度化に対応した取り組みを通して看取りを経験するなど、サービスの質の向上に向けた取り組みが着実に進んでおり、今後もますます期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目については、施設長、管理者、各ユニット主任で組織する管理者会議で協議し、更に全体会議で話し合い解決策を見出している。具体的な取り組みとして、以前は利用者の状態にあわせて日中鍵をかけていたが、職員間の連携や利用者を細かく観察することで、鍵をかけないケアを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の意見を採り入れながら、各ユニットの主任、管理者、施設長で構成する管理者会議で協議し、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族会、自治会、民生委員、地域包括支援センターの代表者で構成し、2ヶ月に1回開催している。会議では、事業所の行事、利用者の概要や生活状況等について報告している。また、警察署や消防署員にも参加を求め、災害時の協力体制等についても協議している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に、利用者の生活状況や健康状態について伝えながら、意見や不満を話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、毎月、利用者の生活ぶりを記載した事業所だよりや手紙を送付することで、面会に来れない家族に対しても、安心感に繋がるような活動に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域とは、自治会の行事や事業所の行事に互いに参加し合える関係を築いている。毎月「朋悠たより」を地域に配布するとともに、散歩時には挨拶し合うなど、日常の積み重ねが関係構築の大きな基になっている。今後は、災害時の協力体制に向け、地域住民も含めた避難訓練の実施や、地域の中で認知症の勉強会を開催するなどの、互いが持つ機能を活かした連携を深めるよう取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、「地域とともに歩む」を基本とした理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を基に、常に管理者会議やユニット会議等で、具体的実践とはどうあるべきかを議論しており、理念を基本にした取り組みを行っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会との交流を大切にしており、地域の行事へ積極的に参加するとともに、事業所の行事である夏まつりには多くの住民が参加し、利用者との交流を深めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で課題となった項目については、管理者会議やユニット会議で具体的な改善計画を立てながら、課題解決に向けた取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族会、自治会、民生委員、地域包括支援センターからの代表者をはじめ、議題によっては警察署や消防署からの参加も得て、2ヶ月に1回開催し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、常に連携できる関係になっており、町主催の勉強会へ参加したり、研修会で施設長がシンポジストとして事業所の紹介をするなど、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、利用者の最近のできごとや健康状態を報告している。また、月1回発行の「朋悠たより」を送付したり、面会が少ない家族には電話連絡をするなど、家族の状況に合わせて対応を工夫し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問や電話連絡の際に意見等を聴いているとともに、不満や苦情等は、その都度ユニット会議等で協議するなどの対応をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはそれぞれのユニットの職員を固定しており、利用者との馴染みの関係を保つようにしている。また、離職等で職員が交代したときは、利用者や家族が不安にならないよう適切な説明や紹介をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の高いサービスの提供には職員の質の向上が必要と施設長は考えており、積極的に外部研修等に職員を派遣している。また、月1回、内部研修の機会を設定しており、ターミナルケアの研修を開催するなど、その時々々の課題に応じた研修に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は、グループホーム協議会の管内ブロック組織の結成に尽力し、結成後は事務局長として、グループホーム全体の質の向上を図る研修会等を開催している。また、町内の3事業所が協働で、社会福祉協議会主催のふれあい広場に出店するなど、職員間交流を通して互いにサービスの質の向上に結び付けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望する場合は、できるだけ本人や家族から情報を収集するとともに、本人や家族に事業所内の見学や体験をしてもらうことで、少しでも不安なくサービスの利用開始ができるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、長い人生を刻んできた利用者に教えてもらうという姿勢で、共に学んだり、共に遊んだりする場面づくりを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、家族からの情報を参考にするとともに、日々の利用者の言葉や表情、利用者同士の会話等からもヒントを得ながら、本人の意向や思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者主体の生活を送るための計画となるよう、担当スタッフの原案を基に、計画作成担当者が作成し、それをユニット会議で全体協議して、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、利用者に変化等があった場合など、随時行っている。	○	今後は、介護計画を3ヶ月ごとに定期的に評価をしながら見直し、変化の兆しに予防的に対処していくことが望まれる。また、転倒事故等に至る前のヒヤリハットの報告が少ないが、利用者の動作の小さな変化等を見逃すことなく、計画の見直しに活かしていくような取り組みが期待される。
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎など、柔軟な支援をしている。また、重度化した利用者については、本人や家族の意向に沿って、ターミナルケアの対応等の支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関以外のかかりつけ医がいる場合も、利用者、家族の意向に沿って、受診支援等を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて、利用者、家族と同意書を取り交わしている。今年初めて、医師や訪問看護師の協力を受けながら、看取りを経験し、この経験は職員の大きな自信に繋がっており、利用者や家族の意向に沿った支援を行うよう、職員間での共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の誇りを尊重しており、排泄誘導時の声かけなどに配慮した対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、野菜づくりなど、利用者一人ひとりの気持ちを尊重した個別の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、下ごしらえ、調理、片付け、茶碗洗いなど、利用者ができることを活かした役割支援を行っている。また、職員も利用者と一緒にテーブルで食事をしながら、楽しい雰囲気づくりに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の入浴日や時間を決めていたが、利用者の体調等の変化や希望に沿って、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴等を把握するなかで、野菜づくりなどの利用者の経験や知恵が発揮できるような場面づくりに、意識して取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、散歩や買い物、ドライブなど、日常的に外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯上施錠しているが、日中は鍵をかけていない。以前は、利用者の状態にあわせ施錠していたこともあるが、現在は利用者の行動観察や職員間の連携によって、施錠をしない取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回定期的に避難訓練を実施している。また、災害等に備えて地域住民の協力を要請しており、運営推進会議に自治会防犯部長も参加して、どんな体制がとれるのか協議を始めている。	○	災害時に備え、自治会との協議を行い協力を依頼している。今後は更に、地域住民も含めた避難訓練の実施などを検討し、実際の災害時に対応できるような協力体制づくりが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を毎日記録しチェックしており、利用者一人ひとりの体重把握とあわせ、栄養バランスに配慮した支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である居間や食堂の窓からは、木々が茂る山々や田畑等の田園風景が広がっており、四季の移り変わりを見渡すことができる。居間も囲炉裏風に飾り付けをしており、利用者がゆったりと過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が仏壇や使い慣れたタンス等の家具を持ち込んでおり、落ち着ける空間づくりを行っている。		

※  は、重点項目。